

一般社団法人 埼玉私保連



広報

No.126

H27. 12月

発行



「首脳会談開催中」

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

平成28年度 保育関係予算要望についての対県面談

平成27年10月22日(木)、さいたま市民会館うらわにおいて、対県面談が行われました。県からの回答を以下に報告します。

1. 県の補助金制度堅持について

(1) 一歳児担当保育士雇用費についてはH27予算で2%増額し、H28も実施できるように

している。(2) 乳児途中入所促進事業はH28年度も3ヶ月分を予定している。

2. 3歳児15：1、4・5歳児20：1の配置について

予算の確保が可能であれば実行したい。国へ要望中である。

3. アレルギー等対応特別給食提供事業について

財源の確保が難しい。調理員の配置基準改善及び基本分単価の充実を国に要望している。

4. 障害児保育対策費について

事業の継続に努め、福祉政策課と一緒に考えていく。

5. 人件費加算について

問題は認識しているが国が地域区分を設定している為、国への要望を努めている。これは全国規模の問題、埼玉県だけの問題ではない。

6. 産休代替職員費について

来年度も事業継続予定しており、今年度は最低賃金の引き上げのみ引き上げる。

7. 公定価格の格差是正について

(1) 職員研修費については

国も研修の必要性を認めている。現状では国の資料上の公定価格の差額分でしか示されていない。

(2) 単価格差については積算単価の基本分を明確にして欲しいと国へ要望している。(3)

チーム保育加算については保育所では主任保育士がチーム加算と同等の扱いである。

8. 各市町村単独補助については市区町村への指導・助言は難しいと考える。

以上の回答を受け、会員からは各要望事項に対して、

・一歳児の発達上、6：1では食事の際などアレルギーのある園児は命の危険にさらされる。

・年齢だけで区切ることは難しい。月齢や発達、家庭環境によっては現状の基準でも充実した保育は難しい。

・0、1歳児のアレルギー児が急増しているが、60万では常勤者、ないしは有資格者の雇用は難しい。

・制度自体が保護者に受入れにくく、保育所での認識と障害児認定との間に数年の期間差が生じる。

・保育

士の給与が安く、持ち帰りの仕事も多い、休憩時間中も事務仕事をしている。

・地域区分が埼玉県は低いながらも国の基準は最低基準であると認識を持って欲しい。

・公定価格に含まれているものを開示して欲しい。等の意見・要望が出されました。



大宮駅頭署名活動報告

天候にも恵まれた10月31日(土)午後、大宮駅頭にて、50名もの会員の方々にご参加いただき、駅頭署名活動を実施しました。埼玉県私立保育園連盟の「みつめよう 子どもの“今”」の風船を片手に園長さんを始め、保育士さんのエプロン姿での活動に、短い時間にも関わらず、530筆を超える署名をいただくことができました。署名を



してくれた方からは「本当に子育て大変です。多くの保育園ができるといいと思います」、「待機児童が早く無くなるといいですね、頑張ってください。」等の激励の言葉もいただきました。

ご参加、ご協力ありがとうございました。

(予算対策部)

平成27年度 養成校関係者との情報交換会



9月14日(月)13:30~16:00埼玉会館において、埼玉県保育協議会・埼玉県私立保育園連盟・さいたま市私立保育園協会の三団体共催による保育者養成校と保育園との情報交換会が行われました。埼玉県保育協議会は、昨年度東部地区のみでしたが、今回埼玉県全体の取り組みとなっています。

養成校は埼玉県内だけでなく、隣接している東京都北区、

松戸市、高崎市、館林市他から23校32名の先生、保育園からは91名が参加しました。また、埼玉県少子政策課の今井主査、埼玉県保育士保育所支援センター長の方々もグループ討議に参加されました。

7A会議室5グループ・7B会議室6グループに分かれて、各々で2回テーブル替えを行い活発な意見交換をしました。テーマは主に“学校や学生の就職に際しての傾向や実態”、“採用試験や実習について”等でしたが、それ以外にもグループによって様々な意見討議が



(調査部・情報交換会実行委員会)

施設訪問ごんじちは

訪問先(さいたま市)

わらしべ保育園

園長 剣持 浩先生



JR埼京線「中浦和」駅から徒歩十五分ほどの住宅街にわらしべ保育園はありました。周辺には新大宮バイパスや大きな工場があり、丘陵地に広がる住宅地の間には畑もあります。所々に雑木林も見られました。昭和四十三年、「働く親さんのために子どもたちの施設を」と近隣の会社の社長さんたちが集まり市へ陳情し、財団法人浦和保育事業協会を発足、認可を受けました。初代、代表である

北村氏(芝浦電子(株))の他、大勢の方のご協力により一年半の準備期間ののち、昭和四十五年四月、全国でも珍しい財団法人立の保育園として、わらしべ保育園は誕生しました。

初代園長は手塚栄三郎氏、その後梅沢順子氏、開園以来、障がい児保育や子育て支援に力を注ぎ、子どもの幸福を願い保育に取組んできました。平成十年十二月、社会福祉法人いなほ会となつてからも、地域の要望に応え、子どもの幸福を願い地域に愛される保育園として変わらぬ歩みを続けています。

平成十六年、本棟の改築竣工後に剣持先生が園長に就任、その後は、梅沢先生が子育て支援センター「ことりのひろば」を支えてくださいました。そして、今年が開園から四十五年、保育園を巣立っていった子どもは千人を超えています。

「心を育む環境」

この日、3〜5歳のクラスでは交流保育が行われていました。プリンカップを床いっぱい並べ



園舎のあちこちに遊び心がいっぱいいて、心がウキウキ弾みます。園庭には、柿・桃・ぶどう・枇杷・みかん・柘榴・無花果・梅など、実のなる木がたくさん植えられています。園舎の隣にある畑を借り、季節の野菜を育て収穫も楽しめます。収穫した梅で梅ジュースも手作りしています。

「氷のプール」に見立てていたり、積み木を高く積み上げ、「ラパンツェルの塔」を作っていたり、エプロン・三角巾を身につけ、それぞれがイメージを膨らませ、遊びを楽しんでいます。異年齢のグループ交流、年齢により感じ方や出来ることも違います。違うことを認め合いたい遊ぶことで、小さな子を「いたわる心」、大きな子に「憧れる心」が生まれます。

どこのクラスにも牛乳パックで手作りされた玩具があり、子どもたちの遊びが広がるように保育室はレイアウトされています。

また、園舎内のちょっとしたスペースには木でできた置物やおもちゃが飾られ、絵本の紹介コーナーもありました。今月の紹介絵本は思わず手に取り読んでみたくなるものばかりです。

「園児が豊かに育つには環境づくりが大切」と剣持先生。安全で快適な生活を送ることが出来る園舎、家族のように見守り生活を共にする保育士、子どもが子どもらしく遊び学ぶ生活を送ることを基本とする保育内容など、すべての環境が子どものために考えられています。また、研修会を開き、一年間の保育を文章化、冊子にまとめることで保育士と保育内容を振り返り、保育の質を高め合っています。

「子育ては支え合い」

わらしべ保育園父母の会では、全ページカラー印刷の広報誌「わらしべっこ」を発行しています。父母会の活動の様子や保育園で過ごす子どもたちの様子を中心に、剣持先生のコラム、思い出の写真、子育ての悩みを保育士がアドバイスをしたり、

手遊びの紹介もあります。栄養士からは人気のレシピの紹介、先輩ママからの病院情報など、子育てに必要な情報が掲載されています。

お父さんお母さんが、子どもに十分に愛情を注ぐことが出来るよう、保育園だけでなく、家庭環境も整え、保護者同士も親密な関係を築いていくことが必要です。子どもも大人も大きな幸せを感じる支援、子育て支援は親支援であり、子ども支援にも通じていきます。関わる人々すべてが大きく深い愛情を持ち、支え合うことにより、「安心」を産み出しています。

玄関ホールに並べられた衣料品や玩具に目が留まりました。最近、父母の会主催のバザーを終えたばかりと伺いました。昨



年は、収益金で子どもたちに観劇をプレゼントしていただいたそうです。

もう一つの支える力が、わらしべ保育園後援会です。代々の父母の会に携わった役員や卒園児、地域の方々たちがメンバーとなっています。

たくさんの方々に支えられ、子どもたちはのびのびと育つことができます。

「育ちを見守っています」

子どもが育つ節目を捉え、ひとり一人の家庭環境を把握して、その時々子ども・保護者が必要とする支援を行っています。

また、ひとり一人違う生活リズムを受け入れ、安心して気持ちよく過ごせるような環境を整え、発達を見守ります。環境を受容する時間や発達のスピードはひとり一人違い、周囲の関わりによっても変わります。決して、無理をせず、子どもの育つ力を引き出していく保育を行っています。

子どもたちは、走れるようになり、スプーンや箸を上手に使い食事を摂れるようになり、言葉で自分の気持ちを伝えられるようになっていきます。日々、成長しています。

幼児クラスになると、みんなできると楽しいという意識が強くなります。時間の大切さや命



の大切さにも触れていきます。また、年長児は就学に向け、これまで培ってきた知的能力(知覚・思考・創造)を駆使し、子どもたち自身が原動力となり活動を展開するようになります。小さな子のお世話を通して、年長児としての自覚が芽生え、「習字」「和太鼓」「お泊り保育」等も体験します。

子どもの持っている力は、各々違い無限大です。保育園生活の中で、子どもの頑張ろうとする力を萎ませないように競争させるようなことはしていません。

「やらせる」のではなく、「一緒にやろう」「こうやると楽しいよ」と子ども同士が関わりながら、できた時の喜びを友だち

と分かち合うことこそが、とても大切な経験となります。大切なのは「得意な子が得意な子に、その魅力を伝えること」と、剣持先生はおっしゃいます。

保育の基本となるのは、「子どもの今の育ちを見守ること」です。

「わらしべ(いなほ)に込められた思い」

環境を整え、保護者や地域の方々と協力して子どもの育ちを見守り、必要なときに必要な「手助け」をしていく大人の凛とした姿勢を感じました。

玄関ホール奥の階段を登る際、目に入る位置に、「わらしべのよう」に、まっすぐ、つよく、そして、やさしい「ころであれ」の額が飾られています。

わらしべのように、自分の力でしっかりと大地に根をはり、自分で考え行動ができる、優しい心を持った「わらしべっこ」を大切に育んでいる保育園です。

二年後には、もう一つの「わらしべ保育園」を計画しているそうです。

未来へ向かって「わらしべっこ」の輪が、大きく大きく広がっていくことをお祈りいたします。

受賞おめでとうございます 保育功労賞

持続可能な社会へ向けて



えがお保育園 島村 よう子

この度は全国私立保育園連盟から「保育功労賞」を頂いたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

平成27年度は保育制度が大きく変わり、行政と二人三脚での制度理解に奔走したスタートではなかったでしょうか。そして多くの保育施設が認定されたことにより「保育の質」が語られる機会の多い一年だったと感じます。

私が選んだキーワードとしましては★こどもを真ん中に★あたたかなまなざし★チーム保育★人材育成の入り口は実習生、等々があります。保育園が今後どのような形で子どもの最善の利益を守る施設になるのか不透明な部分もございます。しかし、この素晴らしい人間社会が持続できるように私たちが子どもたちに伝えていくことを保育者同士で、もっともっと語り合える時間を確保した保育園になれば保育士養成校で学ぶ多くの学生が目標をもって保育の現場に羽ばたくのではないのでしょうか。

平成27年末年の漢字は「安」とのこと。安心・安全な保育を根底に、子ども、保護者、保育者が互いに共存しながら、安らげる保育園でありたいものですね。これからも学びの多い埼玉県私立保育園連盟でありますように。

保育功労賞を受賞して



中丸保育園 新島 ちえ美

この度は連盟より、若輩者の私が「保育功労賞」を頂きました事、身に余る光栄な事と保育関係の皆様方に厚くお礼申し上げます。今年から新制度がスタートしましたが、私自身は受賞を機に新制度の中でより一層子どもに寄り添った保育内容が提供できるように、努力すべきことを再確認しました。

昨年は日本が「子どもの権利条約」を批准して20年になり、「声の出せない子どもたちの権利とは何か。そして、権利を守るためにはどうしたら良いか。」と、保育園関係者が考える良いきっかけとなったと思います。躰と称した親の虐待等の結果、命の危険に晒されている子どもたちの問題は一刻も早く解決される問題です。しかし、一見平穏に過ぎているように見える保育園等の乳幼児施設での生活の中で、子どもの扱いは本当の意味で人権に配慮されているのでしょうか。最近の日本では権利意識が強くなり、自分の意見を主張している場面をよく見かける反面、相手の権利や子どもの人権について意識されない場合が多いと感じます。

私は、保育園の全ての子どもたちが自分の想いが理解され、自分の意見が言えることが保障されることや、気持ち良くゆったりと過ごせることが出来るような環境が提供でき、保育園に通う子どもと大人が大きな家族となって助け合って楽しく過ごせることが出来るよう、今まで以上に精進していきたいと思います。そして、そのような環境で育った子どもたちが子どもの権利を守ることが出来る大人に育つことに期待します。

男性職員交流会報告

10月29日(木) 埼玉青年会議所の活動として、県内の保育園に勤める男性職員にお集まり頂き第1回交流会を開催しました。保育士14名、事務長3名、園長1名の計18名とオブザーバーとして女性の園長3名(内1名青年会議担当者)が参加いたしました。

日頃の男性職員としての悩みや役割について、保育士・管理職並びに事務長に分かれての意見交換や全体会を通して交流しました。男性が活躍できる職場として、また、継続してスキルアップしていくため今後どのような取り組みを行っていくべきなのかなど、今後に繋がるヒントを貰った交流会になりました。次回は来年1月を予定しています。

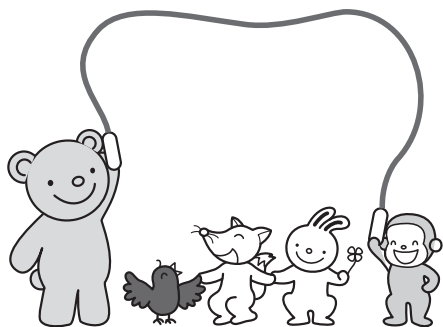
(青年会議)



☆☆ 編集後記 ☆☆

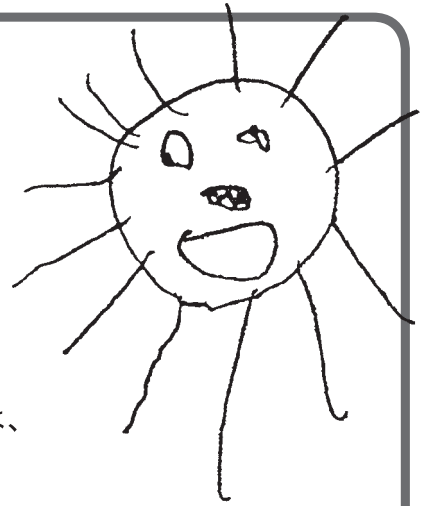
「人間50年、下天のうちをくらぶれば…」信長が好んだという敦盛ですが、とうとう自分にもその年齢が訪れました。昔の人の一生分を生きただけですが、何の成長も感じられません。多少の知識・経験は積みましたが根本は中高生の頃のままだです。「50にして天命を知る」と孔子様は言われましたが、未だ惑い続けで立志も臆…。あと50年ほど生きないと追いつけそうにありません。(M・K)

今年は、保育園の周辺で蜂の発生が多く、駆除に苦労しました。自力で、蜂ジェットを手に、アシナガバチの巣を2つ駆除。庭木の剪定中、剪定業者が、やはりアシナガバチの巣を3つ駆除。もう一つは、木の根元、土の中に巣をつくるヒメスズメバチの巣。これは、手ごわく素人では無理と判断、駆除専門の業者に頼みました。原因は、地球の温暖化?とにかく、被害が出る前に駆除ができ、安堵しました。寒くなり、蜂の姿は見かけなくなりましたが… 来年が思いやられます。(T・M)



事務局 (一社)埼玉県私立保育園連盟
〒363-0015 桶川市南2-7-13 桶川中央マンション2F
TEL 048 (772) 8623
FAX 048 (772) 8635

園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん (旧：全私保連保険制度)

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険)」
「特別保育事業賠償責任保険」
など、園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する
共済制度(こども総合保険)です。
保育者にとっては一般契約に比べて
団体契約による割引の適用で割安な掛金で
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社代理店

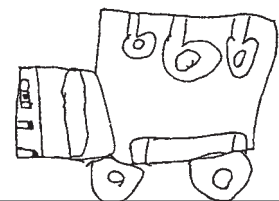
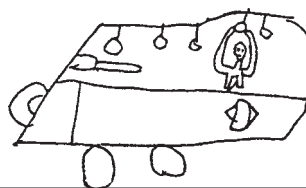
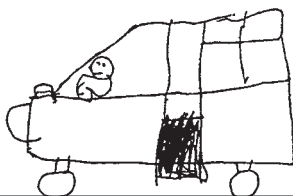
有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 公務第一課
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・
学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険・
こども総合保険の概要についてご紹介したもので
す。保険の内容は本保険制度のパフレットをご覧
ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私
立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、
ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会
社までお問い合わせください。また、ご加入にあつ
ては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。



14-T-09179 2014年12月作成